

ニ ュ ー ス レ タ ー

明治大学史



Vol.8
Mar.31. 2010.

Center for the History of Meiji University Newsletter



三木武夫関係資料調査。関係者聞き取りの様子（2009年9月9日 於三木家菩提寺・真言宗神宮寺）。

ニュース・ヘッドライン

特集 2009年度調査報告

I 三木武夫関係／II 人権派弁護士関係／III 戦没学徒関係／IV 校友関係／V 学内資料関係

センター業務記録 2009年10月～2010年2月

新聞・雑誌等掲載記事一覧

大学史資料センター刊行物案内

大学史紀要第14号 三木武夫研究 I／大学史資料センター報告第31集 大学史活動／戦争と明治大学／明治大学小史（学文社）

特集 2009年度調査報告

センターでは明治大学史に関する様々な調査・資料収集活動を行っています。ここで蓄積した資料を基礎として展覧会を開催したり、成果物等を刊行しています。

本号では2009年度に実施されたおもな調査をご紹介します。

I 三木武夫関係

三木武夫関係資料調査（2009 年 9 月 8 日～10 日）
三木武夫国際交流センター（徳島市 *9 月 7 日）、勝浦町役場（徳島県勝浦郡勝浦町）、真言宗神宮寺（阿波市土成町）、徳島新聞社、徳島県立図書館、徳島市立図書館（徳島市）

2004 年以来、センター内に設置された明治大学三木武夫研究会（研究代表・小西徳應政治経済学部教授）では三木武夫元首相に関する調査を続けています。徳島での現地調査は 2005 年から連続して行



中西文夫氏（写真左）

っているところです。

初日は昨年引き続き三木と徳島県政との関わりを知るため、中西文夫氏（元徳島県議）へのインタビューを実施しました。

中西氏の生まれ育った勝浦町は戦前以来三木が有力な地盤としてきた地域で、三木の熱烈な支持者が多数いたことが知られています。中西氏はいわゆる「三木派」の県議として三木近くで接しました。中西氏は自らの政治との関わり、三木と勝浦の密な関係、三木の徳島での選挙戦、徳島での「三木派」の活動、三木の人柄など、長時間にわたって興味深いお話を聞かせて下さいました。

なおインタビューの会場提供にあたっては中田丑五郎勝浦町長より御高配を賜りました。

翌日は午前中三木家の菩提寺である神宮寺をお借りして三木ご親戚の樋口哲彦氏のほか、三木を良く知る矢部ひろこ氏、成谷英巳の各氏から聞き取りを行いました。

午後は班分けをして三木と世代に近い高齢者の方々と面談し、三木の青少年時代のことを中心にお尋ねしました。お話をうかがったのは三木令夫、岩野クニコ、鉄谷清氏の各氏です。

聞き取りにあたっては島田健作の各氏に大変にご厚情を賜りました。

最終日は「徳島新聞」及びその前身紙にあたる「徳島毎日新聞」のマイクロフィルムの閲覧を徳島新聞社、徳島県立図書館、同市立図書館にて分担して行いました。

そのほか調査の前日に先乗りした竹内室員が三木国際交流センター（徳島市）において、徳島三木事務所関連資料の寄贈を受けました。

なお本調査においては三木洋一、大野利夫、佐藤吉子の各氏にご配慮を賜り、また終始徳島三木事務所島田健作様に多大なご支援を頂戴しました。

また校友会徳島支部役員の皆様に多大なご援助を賜りました。ここに篤く御礼申し上げます。

（小西徳應・秋谷紀男・川島高峰・鈴木秀幸・竹内桂・矢野雅子・村松玄太 *カッコ内は調査者。以下同じ）

II 人権派弁護士関係

① 山崎弘子氏（山崎今朝弥次女）聞き取り調査
〈2009 年 7 月 8 日（木）大学史資料センター事務室〉

第 2 期人権派弁護士研究会（研究代表・山泉進法学部教授、副学長、センター副所長）においては、布施辰治・平出修とともに人権派弁護士としてともに活動した山崎今朝弥（1877-1954）について調査を進めています。

山崎弘子氏は今朝弥の次女にあたり、明治大学商学部を 1953（昭和 28）年に卒業しています。

弘子氏のお話は多岐にわたり、今朝弥の人となりから渡米の目的、滞米中のこと、キリスト教への親炙、無名戦士の墓の地



山崎弘子氏

所、布施辰治、幸徳秋水、徳田球一、岡林辰雄、森長英三郎、今村力三郎、石井漠など今朝弥をめぐる多彩な人物たちにまで話がおよぶ大変克明なもので、人権派弁護士の今後の研究にとって有益なものでした。

(山泉進・飯澤文夫・村松玄太)

III 戦没学徒関係

戦没学徒兵調査〈2009 年 6 月 4 日 (木) ~6 日 (水) 鹿屋航空基地史料館 (鹿児島県鹿屋市)、万世平和特攻祈念館 (同南さつま市) 等〉

センターでは 2006 年度から明治大学における学



特攻隊戦没者慰霊塔 (鹿屋市)

徒出陣と戦没学徒について調査を行っています。今回は昨年度に引き続き多くの学徒兵が従軍していた鹿児島において調査を実施しました。鹿屋航空基地史料館から同館で

把握する海軍特攻戦死者についての詳細な戦闘概

略に関する資料の受贈を受けました。資料は発進から敵側艦船の発見、突入に至る基地との通信の具体的内容が示されています。



万世特攻平和祈念館

万世特攻平和祈念館では、同館所蔵の本学戦死者関係資料について説明がありました。あわせておもに遺族で構成されている同館関係団体作成の戦死者名簿の受贈がありました。

また慰霊塔などの巡見をおこないました。

(別府昭郎・秋谷紀男・阿部裕樹)

IV 校友関係

①利光鶴松関係資料調査〈2009 年 5 月 15 日 (金) ~ 17 日 (日) 利光宣夫家 (大分県大分市)、證誠山各念寺 (同)、池田千晶家 (兵庫県養父市) 〉

小田急の創業など政財界で活躍した利光鶴松 (1863-1945) の関係故地の調査を実施しました。

昨年に引き続き利光宣夫家を訪ね、宣夫氏とともに鶴松の従兄弟叔父にあたる利光キツ氏から鶴松と兄弟の話を伺うとともに、同家で所蔵している書簡や鶴松が多額の寄付をした伊叢皇神社の寄付者名簿である『奉賛録』などの鶴松関係文書を閲覧・撮影しました。

翌日は利光家からほど近い場所にある同家墓所及び墓誌を確認した後、菩提寺の證誠山各念寺 (浄土



證誠山各念寺本堂永代供養銘板のうち一枚

真宗本願寺派) に赴きました。同寺の三原襄雄住職及び夫人が応対され、同寺の由来と、本堂内に利光が献納した永代供養の銘板二枚についての説明を伺



池田草庵

いました。

最終日に伺った養父市の池田晶子氏の自宅は岩国・東沢潟塾で学友であった池田修蔵の実家です。若い頃の鶴松は各地の私塾を点々としていました。池田の父草庵（1813～1878）は天保14（1847）年、青谿書院を創設し、全国から門人を集めていました。主な門人に浜尾新などがいます。鶴松が同家を訪ねた時すでに草庵は亡く、塾も廃されていましたが、鶴松は1883（明治16）年秋から暮まで同家の世話になりました。

現在同家の一部は池田千晶氏の父糸雄氏が青谿書院の事績を伝えるために資料館となっています。同資料館で『青谿書院 池田家系譜』や長男徹蔵・次男修蔵の学習関係文書・書籍類の閲覧・撮影を行いました。

（村上一博・鈴木秀幸・村松玄太）

②伊東千鶴子氏（利光鶴松孫）聞き取り調査 〈2009年7月31日（金） 学校法人大和学園 聖セシリア（神奈川県大和市）〉



伊藤千鶴子氏

利光鶴松の子女伊東静江氏は、大和学園を創立しました。同学園は1984年に聖セシリア学園と改称し、幼稚園から短期大学までを擁する一貫教育校と

なっており、現在は静江氏の息女である伊東千鶴子氏が理事長兼学園長をつとめています。この調査では同学園出身の岡崎ひろみ氏（明治大学大学院法学研究科博士後期課程1年）にも同行していただき、伊東氏に対し聞き取り調査を実施しました。

伊東氏からは鶴松夫妻の宏壮な邸宅や日常の様子について、そして鶴松が創業した小田急のことなどお身内ならではの貴重なお話を伺うことができました。また以下の資料をご寄贈いただきました。

- ・『聖セシリア女子中学校・高等学校』（パンフレット）
- ・「聖セシリア創立80周年記念／2009年春・特別号」2009年
- ・創立60周年記念誌編纂委員会編『大和学園聖セシリア創立60周年記念誌』1989年
- ・大和学園創立50周年記念誌編纂委員会編『大和学園50年のあゆみ』1979年
- ・学校法人大和学園聖セシリア創立記念日・モニカ伊東静江先生35回忌記念出版『ただ信頼あるのみ 創立者モニカ伊東静江先生の足跡』

なお聞き取り調査にあたっては岡崎氏及び青柳勝氏（同学園女子高等学校教頭）に種々ご対応いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

（村上一博・鈴木秀幸・村松玄太）

③木村礎関係資料調査〈2009年8月26日（水）～28日（金） 下妻市役所千代川庁舎・教育委員会生涯学習課（茨城県下妻市 担当 人見健一氏）、長塚節生家（同常総市）、木村こんにやく店（同 木村金次氏）、長命豊家（同坂東市 旧姓金子、昭和35年文学部卒業）、境町歴史民俗資料館（同猿島郡境町 担当 青木敏雄氏）〉

明治大学学長をつとめた歴史学者木村礎は、徹底した村歩きと資料渉猟を通して、近世を中心とする村落社会の歴史像を構築する研究スタイルを確立しました。センターの木村礎研究会（研究代表・門前博之文学部教授）では、今回は木村が教え子とともに調査を行った地域の一つである茨城県千代川村（現下妻市千代川）の関係地を追跡調査するとともに、近在の関係者への聞き取り調査を行いました。

初日は木村が調査にあたった千代川村域のフィールドワークを行い、次の場所を訪問・調査しました。

鎌庭集会所（旧行屋）、鎌庭共同墓地、母子健康センター跡（明治大学合宿利用施設跡）、旧鬼怒川河道、宗道中心部（旧町並）、河岸場跡、宗道神社、宗任神社、長萱薬師堂、伊古立集会所（行屋）、伊古立馬洗場跡（馬頭観音）、飯泉正夫家（同家所蔵文書）

翌日は常総市内の関係地である豊田城、長塚節生家、桑原神社を巡見したあと、木村のいここにあたる木村金次郎家で、青少年時代の木村について話を伺ったあと、金次郎氏の案内で、大房地区集会所、大房地区旧中心街、元木村家跡（現在次男宅、建替）、菩提寺および木村家墓を調査しました。最終日は明治大学での木村の初期の教え子だった長命豊氏と、『境町史』編纂をきっかけとして木村と関わった青木敏雄氏（境町立歴史民俗資料館）にお話を伺いました。

お二人とも木村から大きな影響を受けたことと、資料に即して歴史をみる姿勢が印象に残ったと語って下さいました。歴史民俗資料館では『SAKAI-HISTORICAL FOLKLORE MUSEUM』及び、木村自筆の『下総境の生活史』序文「監修にあたって」の寄贈を受けました。所蔵されている木村の残した町史関係資料は、大学に寄贈されることとなっています。

（門前博之・藤田昭造・長沼秀明・森朋久・鈴木秀幸）

④島岡吉郎関係資料調査（2009 年 11 月 17 日（火） 島岡吉郎旧宅（東京都大田区））

島岡吉郎（1911～1989 年）は明治大学野球部の名物監督として「御大」の愛称で親しまれ、野球界で活躍する数多くの教え子達を育てたことで知られています。

センターでは明治大学に寄贈された島岡監督旧宅の調査を行いました。旧宅では関係新聞・写真等を収集し、すでに資産管理課から移管済の資料もあわせてセンターで保存することになりました。

（阿部裕樹）

IV 学内資料関係

大学の創立以来の歴史とその精神を検証し、未永く継承していくためには大学の歴史資料を地道に収集・保存する作業が欠かせません。昨年公文書管理法が成立しました。同法では公文書を「国民共有の知的資源」と定義し、2011 年の施行に向けてその管理と利用についてのルール作りが進められています。

私立の機関である明治大学ではこの法律は適用されませんが、開かれた大学として、歴史的遺産としての記録資料の収集・管理を行う事は社会に対する大学の義務といえるでしょう。

センターでは学内資料の体系的な収集にむけた条件整備に着手しており、2010 年度には学内での資料所在アンケート調査などを実施する予定です。

また個別に学内各部署からは随時資料の受け入れを行っています。2009 年度は、学生支援部、企画課、入学センター事務室等から多数の資料が移管されました。

（大学史資料センター）



大学史資料センター資料室。寄贈・移管を受けた資料は目録を取った後中性紙封筒に収められ 24 時間空調管理の資料室で保管される。

情報・資料のご提供について(お願い)

明治大学史に関する資料をひろく収集しております。どのようなことでも結構ですので、センター事務室(03-3296-4329・4085)までお気軽に御連絡ください。

頂いた情報・資料は整理して永く保存し、将来の明治大学史のために活用します。

——大学史資料センター刊行物案内——

大学史紀要第14号 **三木武夫研究 I**

A5判並製 334頁 頒価800円(2010・3)

国民を懼れ、政党政治の未来を信じた「議会の子」三木武夫元首相。その実像に迫る明治大学三木武夫研究会の共同研究第一弾。



〈目次〉『三木武夫研究 I』刊行によせて／三木武夫の政治的絶対性—研究の前提的試論（上）／1968年自由民主党総裁選をめぐる三木武夫／三木武夫の政治的発言をめぐる／三木睦子氏インタビュー（上）／自由論題「大学経済史の基礎的研究」／大学史ノート ほか

大学史資料センター報告第31集 **大学史活動** 特集 周年事業をめぐる

B5判並製 200頁 頒価500円(2010・3)

周年事業における大学史の役割とは？さまざまな大学の実践報告。



〈目次〉近代日本の大学における周年事業の発生と展開／明治大学における周年事業の歴史と大学史担当セクションの関わり／各大学における周年事業と大学史（小樽商科大学・慶應義塾・獨協学園・東北大学・立教学院・早稲田大学）／自由論題「自校史教育の歴史と現状・課題」「鳥取藩士山口謙之進の生涯と幕末明治」／記録「目で見る明治大学の歩み」と歩んで

戦争と明治大学 ——明治大学の学徒出陣・学徒勤労働員——

A5判並製 408頁 頒価800円(2010・3)



明治大学戦没学徒研究の集大成！

〈目次〉明治大学戦没学徒研究会報告／明治大学における戦没学徒兵と出征者／戦争と明治大学——学徒出陣と学徒勤労働員を中心に——／史料編

明治大学史資料センター編(学文社刊)

明治大学小史——〈個〉を強くする大学130年—— 四六版並製 280頁 2400円+税(2010・3)



〈個〉を強くする明治大学130年の歴史を読みやすく、コンパクトに凝縮した初めての試み。校友・学生・受験生必携の一冊。

〈目次〉第一章 明治法律学校の誕生とその隆盛／第二章 明治大学への改称と大学令／第三章 戦争と明治大学／第四章 戦後改革と新制明治大学／第五章 大学紛争と大学改革／第六章 明治大学の現在と将来／コラム／付録 ほか

ニュースレター 明治大学史 vol.8 URL <http://www.meiji.ac.jp/history/>
発行日 2010年3月31日
編集・発行 明治大学史資料センター
住所 101-8301 千代田区神田駿河台1-1
電話 03-3296-4329・4085 FAX 03-3296-4086
E-mail history@mics.meiji.ac.jp